

事例10： 匿名B病院（関東地域）の取り組み

「重度化しているコロナ専用病棟等の業務サポートで看護師の負担軽減が図れた」

概要

- （状況） 2020年8月より1病棟をコロナ専用病棟として軽症・中等症患者を受け入れ。
- （支援） 理学療法士・作業療法士1名がリハ業務で1日平均4時間程度病棟滞在し、その間に看護業務の支援を実施。
- （結果） リハ業務の合間にケアの協力などを行うことによって看護師の負担軽減を図った。

コロナ対応病棟での支援

- ・感染患者へのリハビリテーションの提供：あり
- 【レッドゾーンでの看護師とペアで実施】 ・清潔・衣生活援助（おむつ交換や身体ケアなどの介助） ・活動・休息援助（シーツ交換の際の離床実施）
- 【レッドゾーンでの単独で実施】
- ・食事援助（嚥下障害がある患者の食事介助） ・ナースコール対応
- ・環境調整（ベッド周囲を離床しやすく調整）
- 【グリーンゾーンでの単独実施】 事務作業を行いながらの対応
- ・電話対応 ・レッドゾーンへの必要物品等の受け渡し

その他の病棟での支援

- 【看護師とペアで実施】
- ・清潔・衣生活援助（病棟スタッフ人員不足時におむつ交換や身体ケアの介助）
- ・ナースコール対応
- 【単独実施】 ・症状・生体機能管理（体重測定）

病院プロフィール

- 病床数337床
（一般病床、ICU、HCU）
- コロナ患者対応：あり
- 感染対策の教育：
リハ科感染マニュアルを更新し、患者の状態別の個人防護具選択を明確化。あわせて研修及び実技練習を実施。手指衛生実施状況を確認するラウンドも実施。